

株式会社エクセリ(代理店届出番号C1909977) 東京都墨田区菊川3-17-2アドン菊川ビル4F / 北海道旭川市6条通8-36-25 セントラル旭川7F-G号室 / 大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-5本町EASTビル7F URL: <https://www.exseli.com/>

リチウムイオン電池の取り扱いについて

⚠危険

- 水・海水・ジュースなどでぬらさないでください。充電電池パックに組み込まれている保護機構が壊れると、異常な電流、電圧で充電電池パックが充電され、発熱、破裂、発火の原因となります。
- ストーブなどの熱源のそばに放置したり、火のそばや、炎天下の車内などでの充電はしないでください。高温になると危険を防止するための保護機構が働き、充電できなくなったり、保護機構が壊れて異常な電流や電圧で充電され、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックは、本商品に取り付けて、『つなぎかたガイド』に記載された方法で充電してください。それ以外の方法では充電しないでください。他の充電器などで行うと、充電電池パック内部で異常な化学反応が起こり、漏液、発熱、発煙、破裂、発火する原因となります。
- 充電電池パックはプラス（＋）・マイナス（－）の向きが決められています。本商品に取り付けるときにうまく入らない場合は無理に取り付けないでください。プラス・マイナスを逆に取り付けると、充電電池パックが逆に充電され内部で異常な反応が起こったり、または放電時は異常な電流が流れる可能性があり、充電電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。
- 充電電池パックは直接電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口に取り付けしないでください。感電したり、高い電圧が加えられることによって過大な電流が流れ、充電電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。
- 本商品には充電電池パック（ラベルに「AL1-004806」と記載されているもの）を添付しています。指定の充電電池パック以外の充電電池パックを使用しないでください。漏液、発熱、破裂、発火、機器本体の故障の原因となります。
- 充電電池パックは、本商品専用です。指定機器以外の用途に使用すると、機器によっては異常な電流が流れ、充電電池パックが破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックを火の中に投入したり、加熱したりしないでください。絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護機構を損傷したりするだけでなく、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックのプラス（＋）とマイナス（－）とを金属で接続しないでください。またネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。充電電池パックがショートし、過大な電流が流れ、発熱、破裂、発火、あるいはネックレス、ヘアピンなどが発熱する原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、投げつけたり、釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。充電電池パックが変形、充電電池パックに組み込まれている保護機構が壊れ、異常な電流、電圧で充電電池パックが充電される可能性があり、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックに直接はんだ付けしないでください。熱により絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護回路が損傷し、発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックを分解したり、改造したりしないでください。充電電池パックには危険を防止するためのガス排出弁や保護機構が組み込まれています。これらを損なうと、充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因となります。

⚠警告

- 本商品および充電電池パックは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。不用意な取り扱いは危険をとまないます。
- 電子レンジや高圧容器に入れないでください。急に加熱されたり、密閉状態が壊れたりして発熱、破裂、発火の原因となります。
- 充電電池パックの使用、充電、保管時の異臭、発熱、変色、変形、その他今までと異なることに気がついたときは、本商品より出して、使用しないでください。使用を継続すると充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因となります。
- 充電時、所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を停止してください。充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因になる恐れがあります。
- 充電電池パックが漏液したり異臭がするときには、直ちに火気より遠ざけてください。漏液した電解液に引火し、破裂、発火する原因となります。
- 充電電池パックが漏液して液が目に入ったときは、こすらずに水道水などのきれいな水で十分洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。放置すると液により、目に障害を与える原因となります。
- 膨れた充電電池パックを本商品に無理に取り付けしないでください。充電電池パックが変形し、内部や組み込まれている保護機構が壊れ、そのまま使い続けると、火災、やけど、けがなどの原因となります。
- ペットなどが充電電池パックに噛みつかないようご注意ください。充電電池パックの漏液・発熱・破裂・発火により、火災、やけど、けがなどの原因となります。

⚠注意

- 直射日光の当たる場所、炎天下の車内など、高い温度になる場所に放置しないでください。充電電池パックを漏液させる原因になる恐れがあります。
- 危険防止のため保護機構が組み込まれています。保護機構に損傷を与える可能性のある静電気が発生する場所で使用しないでください。保護機構が壊れ発熱、破裂、発火の原因となる恐れがあります。
- 充電電池パックの充電温度範囲は、0℃～35℃です。この温度範囲以外での充電は充電電池パックを発熱、破損させる原因になる恐れがあります。
- 充電電池パックを使用する前に、本書および『つなぎかたガイド』をお読みください。また、お読みいただいた後は大切に保管し、必要なときに読んでください。
- 充電電池パックの充電方法については、『つなぎかたガイド』をよくお読みください。
- 充電電池パックをお買い上げ後、初めてご使用する場合に、さびや異臭、発熱、その他異常と思われたときは、使用しないで、お買い上げの販売店にご持参ください。

株式会社エクセリ(代理店届出番号C1909977) 東京都墨田区菊川3-17-2アドン菊川ビル4F / 北海道旭川市6条通8-36-25 セントラル旭川7F-G号室 / 大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-5本町EASTビル7F
URL：https：//www.exselli.com/

無線 LAN 製品で使用におけるセキュリティに関するご注意

- 無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線 LAN アクセスポイント間で情報のやりとりを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。
 - 通信内容を盗み見られる
 - 悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
 - メールの内容
 - 等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
 - 不正に侵入される
 - 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
 - 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
 - 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
 - コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
 - 等の行為をさせてしまう可能性があります。

- 本来、無線 LAN 製品は、セキュリティに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。セキュリティ対策をほどこさず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむをえない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社はこれによって生じた損害に対する責任は一切負いかねますのであらかじめご了承ください。なお、無線 LAN をより安全にお使いいただくために、暗号化キーは初期値から変更してください。

本商品で使用しているソフトウェアについて

本商品には、GNU General Public License (GPL) または GNU Lesser General Public License (LGPL) に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。お客様は、当該ソフトウェアのソースコードを入手し、GPL または LGPL にしたがひ、複製、頒布および改変することができます。詳細は[ユーザーズマニュアル](#)を参照してください。

電波に関する注意事項

- 本商品は、技術基準適合証明を受けています。
- IEEE802.11ac、IEEE802.11n（5GHz）および IEEE802.11a 通信利用時は、5GHz 帯の電波を使用しております。5.2GHz、5.3GHz 帯の電波の屋外での使用は電波法により禁じられています。
- 5GHz 帯で使用するチャネルは 36、40、44、48ch（W52）と 52、56、60、64ch（W53）と 100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140ch（W56）です。従来の IEEE802.11a で使用の 34、38、42、46ch（J52）の装置と IEEE802.11a モードでの通信はできません。
 - W52（5.2GHz 帯 /36、40、44、48ch）、W53（5.3GHz 帯 /52、56、60、64ch）、W56（5.6GHz 帯 /100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140ch）が利用できます。

- 5GHz 帯で接続する子機は、以下の表示があるものを推奨します。
 - W52（5.2GHz 帯 /36、40、44、48ch）
 - W53（5.3GHz 帯 /52、56、60、64ch）
 - W56（5.6GHz 帯 /100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140ch）
- W53(52/56/60/64ch)または W56(100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140ch) を選択した場合は、法令により次のような制限事項があります。
 - 各チャネルの通信開始前に、1 分間のレーダー波検出を行いますので、その間は通信を行えません。
 - 通信中にレーダー波を検出した場合は、自動的にチャネルを変更しますので通信が中断されることがあります。
- IEEE802.11n（2.4GHz）、IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時および Bluetooth 機能を用いた通信利用時、リモート起動設定した休止状態では、2.4GHz 帯域の電波を使用しており、この周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
 - 本商品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、本商品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに本商品の使用チャネルを変更するか（IEEE802.11n（2.4GHz）、IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時のみ）、使用場所を変えるか、または機器を電源 OFF（電波の発射を停止）にしてください。
 - その他、電波干渉の事例が発生し、お困りのことが起きた場合には、別紙「お問い合わせ・アフターサービス」記載のお客様相談窓口にご連絡ください。
- すべての Bluetooth 機器との接続を保障するものではありません。
- 本商品は 2.4GHz 全帯域を使用する無線設備であり、IEEE802.11n（2.4GHz）、IEEE802.11b、IEEE802.11g 通信利用時は、移動体識別装置の帯域が回避可能ですが、Bluetooth 使用時は移動体識別装置の帯域を回避不可能です。変調方式として DS-SS 方式、OFDM 方式および FH-SS 方式を採用しており、干渉距離は、DS-SS 方式および OFDM 方式で 40m、FH-SS 方式で 10m です。

IEEE802.11b/g/n	
2.4DS4/OF4/FH1	
2.4	: 2.4GHz 帯を使用する無線設備を示す
DS4	: DS-SS 方式で想定される干渉距離が 40m 以下であることを示す
OF4	: OFDM 方式で想定される干渉距離が 40m 以下であることを示す
FH1	: FH-SS 方式で想定される干渉距離が 10m 以下であることを示す
■ ■ ■ ■	: 全帯域を使用し、かつ本商品としては移動体識別装置の帯域を回避不可能であることを示す

- 本商品を 2.4GHz 帯で使用し、チャネル設定を手動で行う場合は、一般社団法人電波産業会の ARIB 規格により下記内容が推奨されています。「この機器を 2.4GHz 帯で運用する場合、干渉低減や周波数利用効率向上のため、チャネル設定として、CH1、CH6、CH11 のいずれかにすることを推奨します。」ただし、無線 LAN 以外のシステムとの干渉を避けるために、推奨の CH1、CH6、CH11 以外を使用しなければならない場合はこの限りではありません。（使用チャネルの設定方法は、[ユーザーズマニュアル](#)を参照してください。）

データ通信端末の比吸収率（SAR）について

この機種 MRO5LN は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。このデータ通信端末は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準（※）ならびに、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関（WHO）と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。
国の技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率（SAR：Specific Absorption Rate）で定めており、本データ通信端末に対する SAR の許容値は 2.0W/kg です。このデータ通信端末を本取扱説明書に記述する通常使用の場合の SAR の最大値は 0.843W/kg です。個々の製品によって SAR に多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。
データ通信端末は、携帯電話等基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通信している状態では、通常 SAR はより小さい値となります。一般的には、基地局からの距離が近いほど、データ通信端末の出力は小さくなります。
通信中は、身体から 1.5 センチ以上離し、かつその間に金属（部分）が含まれないようにしてください。このことにより、本データ通信端末が国の技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合していることを確認しています。
世界保健機関は、「携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで 20 年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません。』と表明しています。
さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページを参照してください。
https://www.who.int/peh-emf/en
SAR について、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページを参照してください。
総務省のホームページ
https://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm
一般社団法人　電波産業会のホームページ
https://www.arib-emf.org/O1denpa/denpa02-02.html
NECプラットフォームズ（株）のホームページ
https://www.aterm.jp/mobile/info/mr05ln/index.html
※ 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第 14 条の 2）で規定されています。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。	VCCI－B
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。	

リチウム系電池輸送規制について

本商品は、リチウムイオン電池を使用しています。本商品とリチウムイオン電池を組み込み、または同梱して輸送する場合は、輸送会社「リチウムイオン電池を含んだ内容物」であることを伝えて、輸送会社の指示に基づいた手続きを行ってください。法令に基づく表示等を行わないで、空輸、海上輸送を行いますと、航空法、並びに船舶安全法に抵触し、罰せられることがあります。

輸出する際の注意事項

- 本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポートなどは行っておりません。
- 本製品の輸出および再輸出（非居住者への役務提供等を含む）に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受ける場合があります。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、本製品の入手元にご相談ください。

- Aterm は、日本電気株式会社の登録商標です。
- Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fi Direct、Wi-Fi ロゴ、Wi-Fi CERTIFIED ロゴ、Wi-Fi CERTIFIED、WPA および WPA2 は、Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。
- Bluetooth は、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。
- その他、各会社名、各製品名およびサービス名などは各社の商標または登録商標です。© NEC Platforms, Ltd. 2016-2019

